



「新しい家」の子どもたち

子どもたちの「新しい家」オープン！

「New House—新しい家」と自然に呼ばれるようになった「子どもたちの家」を今年の8月に開いて、はや3ヶ月近くになろうとしています。

振り返ればここ数年、早くセンターを建てたい、子どもたちの家を準備したいと願いつつ、遅々として進まない状況に苛立ちを覚えていました。思い余って昨年9月、行き場のない12才と13才の孤児二人を、当時のボランティアの近くに部屋を借りて世話を依頼し、近くの小学校へ通わせ始めました。私も出来るだけ顔を見せるようにはしていたのですが、今年の5月その二人が部屋を出てストリートに舞い戻ってしまいました。事情を調べると世話を依頼していた家族とうまくいかなかったようでした。探し出したとき一人は既にシンナーで酩酊状態、一人はただ震えていました。取り敢えず一人を知り合いのNGOに、一人を知人に預けました。そんな折、ギソングという男の子の父親が亡くなりました。彼は13才、スラムで病気の父親と二人で住み、モヨが食事付きで小学校に通わせていた子です。

あれやこれやと色々な事情が重なり、背中を押されるように「子どもたちの家」を開くことを考えました。「時

期だ。もうこれ以上この子達を待たせる訳にはいかない。」との思いで一杯でした。

運良く我が家から歩いて2分、夜中だと声も届きそうな近い所に家を借りられました。一ヶ月余りの準備を経て今年の8月からいよいよ子ども達を迎え入れての新しい生活が始まりました。

それから3ヶ月近く、その間何度もいなくなり、シンナーに走り、連れ戻すと暴れて手がつけられなかったパーティもどうにか落ち着き、協調することも知り、どうしても身体を洗うのを嫌がった(ン)ブルもシャワーに慣れ、泣き虫ケヴィンも少しは強くなり、ギソングがよく家事を手伝ってくれ、通い始めた近くの小学校にも皆どうにか慣れ、8年生のサムソンとラバンは受験勉強に励んでいます。スタッフの指導の元、家事分担も少しずつ定着してきました。

週に4日、7時になるといつものひと騒動、「新しい家」の子どもたちが我が家にテレビを観に来ます。外から近づいてくる賑やかな声、待っていたかのように喜んで尻尾を振ってゲートに駆け寄る太郎(今年9月にもらわれてきた犬)。ゲートを開けるとドットと入ってくる子ども達、身体ごとぶつかっていく太郎。「タロー！タロー！」とじゃれあう子どもたちと大きな笑い声。

まだまだ試行錯誤を重ねながらではあるけれど、彼らの笑顔や笑い声が日ごとに増え、「家へ帰る。」という言葉が自然に口にしているのを聞く時、しみじみと「新しい家」を開いて良かったと思うのです。

とはいえ、すべてが一挙に落ち着く筈もなく、次々と彼らが起こす問題にスタッフ共々、翻弄されています。センターが建ち、皆で引っ越す日までここキボコの「新しい家」が彼らの家、騒動を起こしてはご近所の方々に謝る日々が続きます。

松下

← 左上：「新しい家」の外観 右下：犬と遊ぶ子どもたち



ティカの方々と共に

「松下さん、地元ティカの方々はどのようにモヨを必要とし、関わっていますか？ センターの永続的な運営、維持には地元の方々の協力がぜひとも必要だと思います。」センター建設のための公的資金の申し込みに大使館を訪問した際にこう聞かれ、ハッとしました。常々、将来モヨの運営はケニア人自身にとってきたにも関わらず、日々の活動に追われ、抜けていた一番大切なことを指摘されたからです。

それから、役員、スタッフと共に、地元の方々にアプローチするための模索が始まりました。まずモヨを出るだけ多くの方に知って頂くために、歴史、目的、活動内容、現状等を英文で「モヨのプロフィール」として作成しました。それにセンター完成予想図を添付し、「ご協力お願い」の手紙を添えて手渡すことになり、皆に作って貰ったリストを元に訪問を始めました。まだ始めたばかりですが、多くの方々から「モヨの活動を知っている」と言われたのは嬉しい驚きでした。以下にご協力を申し出てくださった方々の幾人かをご紹介します。

●いつも子どもたちの制服等を買いに行く「ファッション・センター」のご主人アシュインさん。この方には日頃から困った時に何かと相談にのって頂いているの

ご協力頂いている方々



アシュインさん シュディールさん ムリングワ医師

ですが、ご家族の名前で子どもたちにと主食用のトウモロコシの粉、チャパティー用の粉等食材をたくさんご寄付頂きました。また、友人、知人にも声をかけてくださり、自動車部品を販売しているお友達のシュディールさんからもお米、砂糖等をご寄付頂きました。加えてシュディールさんからは、来年から子どもの学費支援をしたいとのありがたい申し出も受けています。

●ティカ州立（district）病院からは医局部長のムリングワ医師を通じて、モヨの活動に感謝すると共に、今後健康管理面において協力を約束するとの公式なレターを頂きました。

いつも車を実費のみで修理して下さるジャミールさん、近所に住み色々お世話になっているお医者さんのギジオリさん、新しく借りた「子どもたちの家」の大家さんでもあり、私の履歴書の保証人にもなって下さっているケニヤッタ大学で教鞭をとっていらっしゃるルーシーさん等々、いつか折を見てご紹介したいものです。

松下

ストリートの子どもたちへの支援活動

モヨ F・C(フットボール・チーム)

「大変なことが起きました！」9月のある月曜日、いつもの時間にスタジアムに着くとサッカーのコーチのケンがやって来て言いました。「一体どうしたの？」「昨日、試合で子どもたちが審判に乱暴をはたらいた！」大きさではなく、一瞬血の気が引く思いでした。というのも彼らはサッカーのこととなると見境がなくなることがあるからです。

「怪我は？」の問いに「たいしたことはなかった。謝って許して貰った。」とのことでほっとしたものの、何だか力が抜けるようでした。

この経緯は、審判が公平ではないという不満から、試合後にちよつと言われた言葉が引き金になって一人が突っかかっていったのに他の子どもたちも同調して、

殴る、蹴るの騒ぎに発展、コーチも止められなかったとのことでした。

この3ヶ月に渡る教会主宰のこのトーナメントに「モヨ F・C」はストリートの子どもたちのチームとしては唯一の参加として注目を浴びる中、態度・技術共に最も向上したチームとして表彰されるかも知れないとの報が入っただけに、この事件はショックでした。

子どもたちを集め事情を聞きながら、悔しさと情けなさに不覚にも涙があふれてその場を去ってしまった私に、一人一人と子どもたちが謝ってきました。彼らも泣いていました。嬉しいこと、辛いこと、悔しいこと…色々織り交ぜながら、今日もサッカーの練習に励む子どもたちです。

松下

ケニア人学費支援者第一号誕生！



モヨ設立以来の役員でもある弁護士のボビーが「子どもの学費支援をしたい。友達にも呼びかけたい。」と申し出てくれました。「やっと！」という思いでした。ケニアの大人が自国の子どもを支援する、それは私が待ちに待っていたことです。この第一号誕生は、ケニアの人々と共にという私の願い実現への第一歩、そのための突破口になるのではないかと期待しています。

松下

●フランスからのお礼状

僕のために学費支援が決定され、支援して頂いていることに感謝しています。8月28日に僕はスポンサーのボビーさんに会いました。彼はとても優しく気さくな人でした。僕は最初の面会の時、支援者の人と気軽に会い、緊張することもなく、愛されていると感じることができなんて想像も出来ませんでした。

ボビー氏と照美さんの努力に対して神様へ感謝します。彼らと話し、食事を一緒にしたことはとても嬉しかったです。僕はとても幸せで、素晴らしい機会を作ってくれた照美さんに対して、感謝しています。僕は決してこのことを忘れません。

フランス・ムトゥア

どうして私はフランス・ムトゥアを援助するのか

ボビー・ムンガ・ムカンギ

フランス・ムトゥアへの援助は、私が学校で学んだことを実践することでもあり、また、もっとケニア人が目を向けるべきことなのですが、松下照美さんと日本の支援者の人たちが子どもたちを援助し続けていることに恥じない行動を取ることもあります。これが他のケニア人にとって良い見本となり、ひいては、賢いけれども経済的に貧しいムトゥアのような子どもに目を向けるようになったらと願います。フランス・ムトゥアは社会で重要な人に成長すると信じますし、でももし機会が与えられなかったらそうはなりません。ムトゥアのような子どもを助けることにより、私は単純な方法でこの国と社会の未来に投資していることとなります。私は MCC を通じてケニアの子ども達を援助し、なお多くの人に働きかけている日本の人々に感謝しています。私はまたこの機会に、これを読むすべてのケニア人に、私達の周りのたくさんの助けが必要な子ども達に手を差し伸べるよう説得したいと思います。さらに、私の申し出を受け入れてくれたフランス・ムトゥアにも感謝します。

ボビー・ムンガ・ムカンギ / 1975 年生まれ・ケニア人・弁護士（専門・子どもの権利保護） / モヨ役員・本年9月より運営アドバイザー

■クジュアナ・フェアに向けて■

モヨでは今、3つのグループに関わっています。一つは以前にもモヨ通信で紹介した長い付き合いのキャンデウデウ・スラム・ウイメンズグループ、後の2つのグループは新しくモヨがサポートを始めたグループで、オアシス オブ ホープ ウイメンズグループと モヨ・ハンディキャップグループです。各グループ、メンバー構成も内容も違いますが、共通の希望である生活の為の収入向上に向けて一緒にがんばっています。グループそれぞれが定期的に会合を持ち、問題がある場合やモヨの力が必要なときに一緒に考え、問題解決に向けて話し合いをしています。

現在は クジュアナ・フェアを一つの刺激としてがんばっています。クジュアナ・フェアとは、ケニア全土の村で活動している協力隊員が、それぞれ抱えている問題や試行錯誤を他の村のケニア人と情報をシェアし、問題解決の糸口を見出したい、自分た

ちの作ったものを売るためのマーケットを拡大していきたい、などの目的を持って開かれるフェアです。

モヨのグループも、この12月に開かれるフェアに向けて、各グループそれぞれが代表をミーティングに送ったり、どんなものを作って売れるのか考え始めています。ミーティングに参加した代表の一人が、堂々とみんなの前で発表する場面が見られたり、このフェアの話でメンバーが刺激を受けてやる気を見せたりと、グループの活動にとってもいい刺激になっているようです。今は、各グループそれぞれが自分たちで何を作って売れるのか話し合っています。今後、それらの作品をモヨに持ち寄って、本当に売れるものを作るための話し合いをみんなで行う予定です。

試行錯誤の始まりです。きっと、道のりは甘くないと思いますが、みんなががんばって売れるものを作れるよう、そして、いつか良い話が報告できる事を期待してやっていきたいと思います。

今泉

中・高生支援の第一号 ———— ●Duncan Nduati ダンカン・ドウワティ・男子・19才

私が出会った子どもたち④

彼はモヨが学費支援対象を小学生から中・高生に切り替えた時の中・高生の第1号です。それから間もなく二人目の子どもの支援を始めたのですが、偶然二人が同じ学校の生徒だったので、すぐ仲良くなったようです。彼は若い女医さん、もう一人はそのお母さんの支援を受けていました。たまたまもう一人が医者志望だったので、支援者を取り替えてあげたらと冗談を言ったら「絶対イヤダ!!」と泣きそうになりながら、ものすごい剣幕で拒否した時のことが懐かしく思い出されます。本当に幼かった彼も昨年卒業、大学入学を待ちながら、午前中はモヨで働き、午後はモヨの支援でコンピューター専門学校に通っています。

- 質問1) 友達という時どんな話をしますか？ 答え) 将来の職業について。
 質問2) いちばん嬉しい時、幸せな時はどんな時？
 答え) 新しくできた友人達と話す時。
 質問3) 何か困っている事や心配事がありますか？ (はいと答えた人だけ)
 a) それはどんなことですか？
 答え) 自分と弟たちに必要なものをどうやって得るかということです。
 b) それらのことを解決するのに誰に相談しますか？
 答え) 兄に相談します。
 質問4) 将来についてどんな夢を持っていますか？
 答え) エンジニアになりたいです。



ティカ・スタジアムにて

ケニア・ア・ラ・カルト⑦

マタツ

ケニアには、日本と同じようなバスと、ワンボックス車両を改良したミニバスのマタツがあります。このマタツ、私の友人いわく「マタツには文化がある。」そういえば、自分の気に入るマタツが来るまで待っている人達も多々います。トレンドな音楽を流し、車両に派手なペイントをしたマタツが皆のお気に入り。キュートなマカンガ(車掌)だったら、文句なし。走り出した車にステップを踏みながら飛び乗るパフォーマンス。最近は見られなくなりました。

以前は乗客を詰め込めるだけ詰め込んで、半身が車から出ている状態で走ったりしていましたが、交通法の改正により、バスもマタツも全員着席とシートベルト着用が義務付けられました。ドライバーもマカンガも制服着用、車両も白地に黄色のラインのペイントをするようにと厳しい規制でしたが、最近は、規制がゆるくなったのか、又派手なペイントの車両が多くなってきて音楽もかけるようになりました。ビデオを流しているマタツもあるようです。このマタツ、時の政府の方針に左右されながらも、独自の文化を育んでいって欲しいものです。が、無謀な運転には辟易です。(高橋)

編集後記

- ◎この通信がお手許に届くころ私は日本です。11/3～12/5 日本滞在、どこかでお目にかかれるかも知れません。(テル)
- ◎「新しい家」に住み始めた子どもたち、そのござっぱりした姿を見ているとなんだかうれしくなります。(優香)
- ◎日本での暮らしも早や7ヵ月。ついケニアのリアリティを忘れそうな日々です。想像力が大事ですね。(英)

誕生日：1985年12月10日
 住所：P.O.Box940Thika ティカ(キャンデウテウ・スラム) 在住
 現在通っている学校：Thika Inter. Net Comptechology
 家族：父—記憶無し 母 2000年に死亡 8人兄弟・姉妹の4男
 1日の日課6：30起床 8：30～1：00モヨで働く 2：00～4：00コンピューター学校 4：00～6：00自由時間(友人にあたり、読書したり) 6：00～8：00 夕食の支度と夕食 8：00～9：00 弟に勉強を教える 10：00就寝

「モヨ・チルドレン・センターを支える会」会員募集

お一人でも多くの方に、一社でも多くの法人にご入会いただき、当センターを支えて頂ければ幸いです。

		年会費	
		個人会員	法人会員
①正会員	日本	6,000円	20,000円
	ウガンダ・ケニア	4,000KSH	13,000KSH
②賛助会員	日本	3,000円	3,000円
	ウガンダ・ケニア	2,000KSH	2,000KSH

経過報告(2005年9月30日現在)
 正会員：日本40名(2名増)・ケニア4名(3名増)計44名
 賛助会員：日本29名(1名増)ケニア1名(初1名増)計30名
 特別会員：日本41名(2名増)ケニア1名(初1名増)・法人3社
 総会員数：個人116名・法人3社
 「支える会」よりお願い
 2005年の会費納入をお願いします。
 事務所新住所 〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林1785-1
 新電話番号：0896-74-7920

モヨ・チルドレン・センターの歩み

- 1997年11月 ■ケニア政府大統領府 NGO ビューロー・インターナショナル NGO 登録の申請書類提出。
- 1999年9月 ■ケニア政府より国際NGOとして「モヨ・ホーム」正式に認可・登録される。
- 2000年10月 ■ティカにて、本格的に活動開始。
- 2001年5月 ■「モヨ・ホーム」から「モヨ・チルドレン・センター」に改名。
- 2004年4月 ■「モヨ・チルドレン・センターを支える会」発足。

モヨ・チルドレン・センター ●ケニア政府 NGO 局登録番号：OP.218/051/97223/1006
 P.O.BOX 2712 THIKA KENYA TEL/FAX：254(ケニアの国際番号)-067-22329 E-MAIL：moyo@africaonline.co.ke
 日本連絡先
 ■モヨ・チルドレン・センター日本支部 〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1905 青木康子：TEL/FAX：044-433-3447
 ■モヨ・チルドレン・センターを支える会 〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林1785-1 高塚政生方：
 TEL/FAX：0896-74-7920 携帯電話：090-11715632 E-MAIL / tmasao@d1.dion.ne.jp
 ■「支える会」会費 / 寄付受付※口座名：モヨ・チルドレン・センターを支える会 代表者：高塚政生 ※郵便振替口座番号：01660-1-73996